



天文資料

2018年 11月号

平成30年度 第8号 (11月号)

平成30年10月26日

発行：佐世保市少年科学館

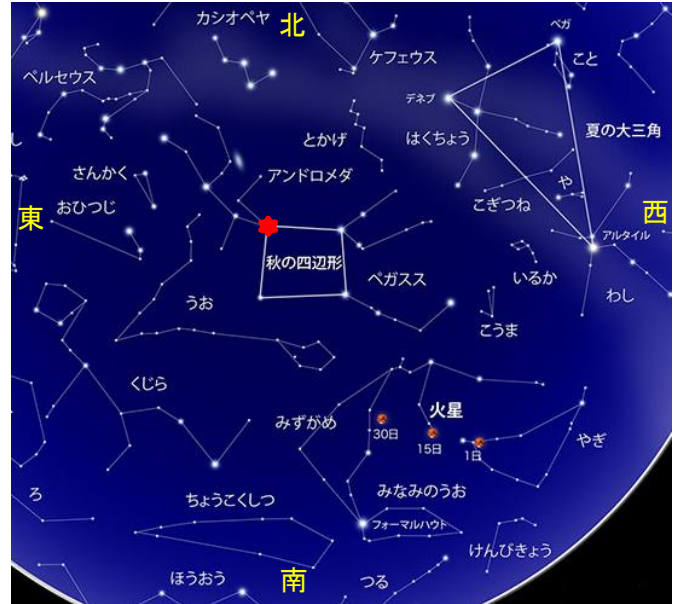
佐世保市少年科学館



＜秋の四辺形が空高く！ 火星は遠ざかりながら、みずがめ座へ＞

肌寒い日が増えてきました。季節は秋本番を迎えているようです。

夜空を見上げると、天頂を占めていた夏の大きな三角も、ようやく西に傾き、秋の四辺形(ペガサスの四辺形)が天頂付近で輝くようになりました。いよいよ秋の星座が空全体を占めるようになってきましたが、実は秋の星空には1等星がひとつ(みなみのうお座のフォーマルハウト)しかなく、2等星と3等星が中心の星座(それも大型)が並びますので、慣れないと星座の形そのものをとらえるのが難しいでしょう。しかし、秋の星座は古代エチオピア王家にまつわる物



国立天文台 HP より

語から生まれた星座が多いのが特徴ですので、その方面から星座を覚えていけば、案外見つけやすいかもしれません。

その一番手は「ペガサス座」です。天頂付近にある秋の四辺形から西側に広がった大きな星座で、この南側に「みずがめ座」、さらに南側に「みなみのうお座」があります。また、秋の四辺形に沿うように「うお座」が、その南側に「くじら座」があります。さらに、秋の四辺形の左上の星アルフェラツから北東に向かって「アンドロメダ座」が、それをはさむように「カシオペア座」と「ペルセウス座」があります。

今年の夏、話題となった火星もすっかり遠ざかり、明るさも0等級に落ちました。しかし、この11月は「やぎ座」から「みずがめ座」に移動する時期ですので、この2つの星座を見つけるのに、ちょうどよい目印になっています。

＜124億年彼方で暴走するモンスター銀河！＞

国立天文台の但木謙一氏と伊王野大介准教授を中心とする国際研究チームは、124億年彼方で爆発的に星を作っているモンスター銀河COSMOS-AzTEC-1をアルマ望遠鏡で観測し、形成初期の銀河においてかつてない高解像度で分子ガスの地図を描き出すことに成功しました。そしてこの地図を解析した結果、このモンスター銀河では、銀河全体にわたって分子ガス雲がつぶれやすくなっており、大量の星々が暴走的に生



モンスター銀河 COSMOS-AzTEC-1の想像図

まれている様子が見えてきました。モンスター銀河は現在の宇宙に存在する巨大楕円銀河の祖先にあたる銀河と考えられているため、今回の研究成果は巨大楕円銀河の誕生の秘密を探ることにつながります。(国立天文台の記事より)

☆☆ 金星が明けの明星へ ☆☆

10月25日に内合となった金星が、明けの明星として早朝の東の空に輝くようになります。11月中旬から見やすくなりますよ!